

六条潟におけるアサリ稚貝発生状況

漁場環境研究部 漁場改善グループ

六条潟には、毎年大量のアサリ稚貝が発生します。この貴重な資源を有効に活用するため、本県のアサリ漁業者は県から特別採捕許可を受けて稚貝を採捕しています。採捕された稚貝は、県内アサリ漁場へ移植放流され、成長後に漁獲されています。このように六条潟の稚貝は、本県アサリ漁業にとって非常に重要な資源となっています。そこで、当グループでは、六条潟北部に調査点を3点定め（図1）、毎月1～2回、1mm目合いのふるいに残ったアサリ稚貝の大きさと生息密度を調査しています（図2）。

1月及び2月の調査では稚貝はほとんど確認できませんでしたが、3月の調査で2,640 個体/m²の生息密度で稚貝が確認されました。4月の調査では稚貝の生息密度は22,670 個体/m²と急激に増加し、平均殻長は2.9mmでした。直近の6月26日の調査では、生息密度は22,960 個体/m²と4月以降最大の生息密度となり、平均殻長は8.3mmと稚貝は順調に成長していました。なお、生息密度は岸測の調査点ほど高く、生息密度が高い岸側では殻長は小さい傾向がみられました。

今年もアサリ稚貝の特別採捕の実施を判断する資料とするため、6月18日に県と漁業者により六条潟全体で稚貝資源量調査が行われ、7月上旬から稚貝の採捕、移植放流が始まる見込みとなりました。本県のアサリ漁獲量は、近年、減少しており、漁獲量の回復が強く望まれていることから、移植放流された稚貝が各漁場で順調に生育し、漁獲量の増大につながることを期待されます。

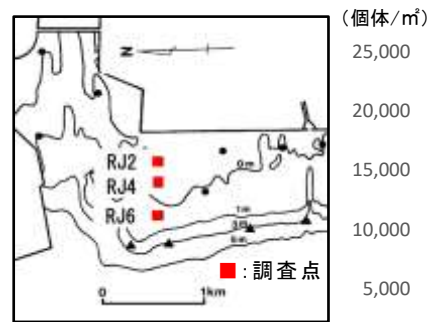


図1 六条潟北部のアサリ稚貝調査点

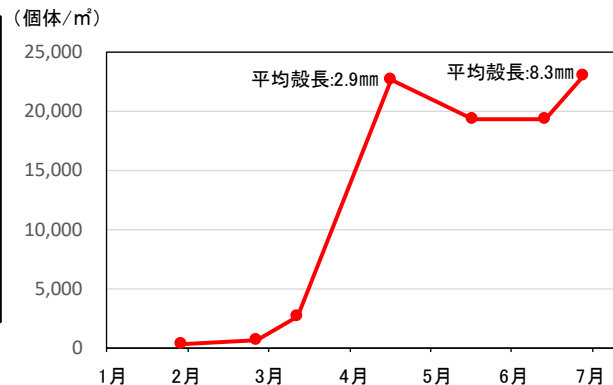


図2 アサリ稚貝生息密度の推移



図3 アサリ稚貝(6/26調査)

キンギョやメダカの吸虫被害軽減に向けて

内水面漁業研究所 観賞魚養殖グループ

本県の海部地域では、キンギョやメダカなど観賞魚の養殖が盛んです。この観賞魚養殖では、近年クリノストラムという吸虫の被害が目立っています。クリノストラムは、魚の体表付近に2mm程度のニキビの芯のような形で寄生し、温度変化などの刺激があると、活性化して魚の体内を這いまわります。このとき、多数のクリノストラムに寄生された魚は、へい死することも少なくありません。クリノストラムは、モノアラガイ、魚類、鳥類の順に宿主をかえながら生活しますが、どの時期にモノアラガイから魚類に寄生するか特定できれば、被害を軽減するための重要な手掛かりとなります。そこで、海部地域のキンギョ養殖池で、定期的にモノアラガイを採取しクリノストラムの寄生状況を調査しました。

クリノストラムは、主に6月から9月にモノアラガイへの寄生が確認されました。また、今年度の調査でも、6月に入ってからクリノストラムの寄生が確認されています（図4）。これらのことから、6月から9月に養殖池のモノアラガイを駆除することで、クリノストラムの被害を軽減できると考えられます。

水産試験場では、引き続きモノアラガイの調査を行うとともに、モノアラガイの駆除方法やクリノストラムの効果的な駆除方法について検討を進めます。

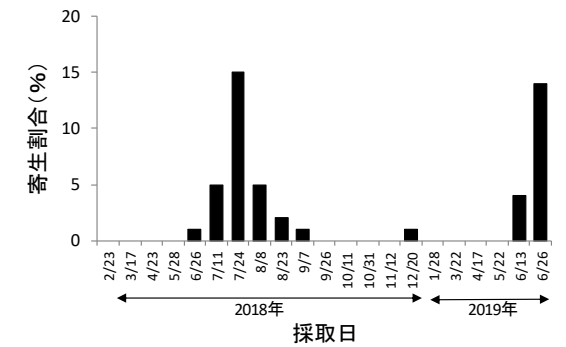


図4 モノアラガイのクリノストラム寄生状況

海とお魚漁業体験教室（少年少女水産教室）を開催します

本場 企画普及グループ

水産試験場では、水産業に対する関心と理解を高めるとともに、漁業の担い手を確保することを目的として、県内漁業地区等に在住の中学生を対象に下記の通り「海とお魚漁業体験教室」を開催します。

この教室では、実習や講義を通して、愛知県の水産業について楽しみながら学んでいただきます。海やお魚に興味がある、または水産関係の職業に就きたいと思っている中学生の皆様の参加を、お待ちしております。詳細は、以下のウェブページをご覧ください。

→ <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/suisanshiken/suisankyoushitsu.html>

記

- 日時：令和元年7月30日（火）午前10時～午後4時
- 場所：水産試験場 本場（蒲郡市三谷町若宮 97）
- 内容：小型底びき網漁船の船内見学、漁獲物の分類・干物作り、腰まんが漁業体験、のり漉き体験、愛知県の水産業に関する講義など
- 対象及び定員：県内在住の中学生 約20名
- 参加申込期限：令和元年7月9日（火）まで
- 担当：本場 企画普及グループ

電話：0533-68-5198



図5 昨年の開催の様子

